

六、指導支部は指導本部の方針に基き行動すること。
 七、學校報國隊に關する指導統制は道府縣學校報國隊本部に於いて勤勞報國隊指導本部と緊密なる連繫を保持し之に當ること。
 八、勤勞報國隊指導本部に協議會を置くこと。

(イ) 本年一月三十日附實厚第廿六號「國民皆働協議會開催要領」に據り勤勞報國隊の結成、動員等に關する協議會を開催し勤勞報國隊運動の圓滑敏速且つ有效なる展開實施に付具體的に協議打合せを行ふこと。

(ロ) 協議會は左記官公衙、團體等の主務者等をして組織すること。道府縣廳並に關係官公衙、國民職業指導所、軍關係廳(聯隊區司令部、海軍人事部、運輸部、軍需部、作業廳等)、學校、國民運動諸團體(大日本翼贊壯年團、大日本產業報國會、商業報國會、農業報國聯盟、日本海運報國團、大日本青少年團、大日本婦人會、勞務報國會等)、農會、工場、作業場其他必要な團體。

(ハ) 支部協議會の組織は概ね前項に準ずること。

第六 動員

一、計畫動員

勤勞報國隊は原則として地方長官の設定する勤勞報國隊需給計畫に應じて出動すること。

二、緊急動員

空襲又は水火災、その他の災害等に際し必要あるときは地方長官その他關係官廳の要請に違ひ若くは之と連繫して直に出動すること。

三、隨時動員

前項の外必要且つ有效なる作業を興しこれに隨時

自發的に出動すること。

第七 訓練

一、勤勞報國隊は盡忠報國の精神より發足するものなればこれを基調として強力なる實踐を遂げしむるやう特にこれが訓練に意を用ひること。

二、勤勞報國隊指導本部は適當なる方法に依り勤勞報國隊の資質を向上し、その行動を有效ならしむるため、勤勞報國隊幹部並に現場指導者の訓練の實施又は斡旋に當ること。

三、勤勞報國隊招聘側責任者はその招聘に付萬遺漏なき手配をなすこと(「國民皆働協議會開催要領」三の(一)(二)参照のこと)。

四、勤勞報國隊の行動要式、訓練要項等に付ては夫々道府縣勤勞報國隊指導本部に於いて適宜之を定むること。

第八 その他

一、勤勞報國隊の運動は愛國運動に出づるものなるも、その勤勞奉仕の期間、性質等に依りては國民勤勞報國協力令に依らざる場合に於いても謝金及び手當を受くるを得ること。

二、本要綱に定むるものゝ外、勤勞報國隊制度の刷新強化に關する厚生、文部省通牒に遵ひ實施のこと。

三、已に發足活動せる勤勞報國隊にして本要綱により新たに變更の要なしと認めらるゝものに付ては大政翼贊會事務總長に打合せること。

大本營陸軍報道部長の米英戦力に關する講演要旨

大本營陸軍報道部長谷萩少將は昭和十八年五月廿五

日横濱に於いて「米英敢て恐るゝに足らず、但し侮るべからず」なる題下に特に北米合衆國の戦力をその生産力及び人口資源の觀點より分析批判するところがあつたが、その講演要旨を新聞報道により再録すれば左の如くである。

谷萩陸軍報道部長講演要旨

敵側陣營の中核が米國であり、英國も重慶も米國に依存して前途暗澹たる戦ひを續けてゐるのであるが、この米國は勝利の三要素として生産力、人力及び時間を擧げて宣傳これ努めてゐる。私はこの三要素について検討を加へ以て米英敢て恐るゝに足らず、但し侮るべからざる所以と、長期戦の最後の勝利は絶対確實に糧軸側に在ることを明かにしたいと思ふ。

米國は世界最豊富の資源を有し最優秀なる生産機構を持つことは周知のことで、これによつて所謂天文学的數字と批評される軍需生産を企圖してゐるのは事實である。然し實際の生産は彼等の誇示する數量の六割程度であらうと察せられる。それは某資源の不足、分配輸送の不圓滑等によるものである。先づゴムの不足である。ゴムの九割は大東亞のわが占據地から生産される。現在米國の持つゴムのストックは四十萬トン内外で中南米アフリカ地域からの取得は最大限數萬トン、國內の再生ゴムは約廿萬トンであるが米國の所要量は年約八十萬トンであるからこの一兩年以内に行詰る筈の計算となる。米國は目下人造ゴム即ち合成ゴムの生産年約四十萬トンを目指して大いに努力しつつあるが、これも豫定通りには參らぬらしい。單にゴムのみを取り上げて然り。このほか鐵錫、マンガン、アル

ミニウム、クロム、水銀、雲母等の礦物資源の不足も相當なものがある。こゝで一言付け加へたいのはキナの取得難である。キナはジャワのバンドン附近が世界の産地で世界の需要の九割八分までがこゝから出る。それがわが軍に占據され米英に對し封鎖された結果敵はマラリヤの猖獗を防ぐに由なく洵に致命的である。現在ソロモン、ニューギニア、印度方面遠征の將兵が悪性マラリヤを治療することが出來ず續々として無數に斃れつゝあるのは同情に値する。

大東亞戰爭勃發後米國は軍需生産關係を戰前の三倍或はそれ以上と思はれる大擴張を遂げた。これに伴つて勞務關係も増強せねばならぬが、さて熟練工といふものは急速に三倍も四倍も増加し得るや否や疑問なき能はずである。最近米國において飛行機事故が頻發してゐるのは勞働者が思想的に悪化しその製品を以て故意に反戦を表示するばかりでなく、技術的製作上の缺陷を物語るものであらう。かくの如く老成化した軍需のため民需に對する壓迫も甚しく本年後半期において現有民需のストックが消耗され、而も民需の生産が緊縮されることになれば、自由主義、享樂本位の生活水準の高い國民が果して何時までこれに堪へ得るや不平不満は漸く巷に溢れ出した様子である。扱てこの生産された兵器資材は、全地球上擴大なる地域に分散進駐せしめた百數十萬といふ自國軍の補給に充てるほか武器貸與法により英國にも重慶にもまたソ聯にも配給し、所謂デモクラシーの兵器廠の任務を果さねばならぬから生産された兵器の全部が日本への戦力となるものではない。日本へ向つて來るのは全量の何割かである。また所謂戦力となるためにはこれが大東亞の戦場へ安全

確實に運搬され、各部隊に配給されしかして戰術的に運用されねばならぬ。この空間的時間的戰術關係こそ日本の正に乗ずべき點なのである。頼山陽は「兵は器にあらずして氣に在り」といつた。兵器は元來死物である。これを活用するのは人である、魂である。幾萬の飛行機、幾千の戦車、幾百の軍艦を作つてもこれを運用するのは結局人であり、魂である。米英の粗製濫造の將兵がわけのわからぬ戦争に驅り立てられ好奇心や冒險心や英雄主義を満足させ戦闘を最大のスリルのあるスポーツと心得てゐるに至つては沙汰の限りである。かくて殲滅されつゝある無數の米國將兵こそ哀れなる存在でなければならぬ。

次に人力に就てである。昨年米國のマーシャル參謀總長やマックナット動員委員長は米國の陸海軍を約九百萬にすると發表してゐる。米國の總人口は一億四千萬で男女半々であるから九百萬は米國男子の八分の一にあたるわけだ。また米國の第一次歐洲大戰における陸海軍兵力は二百萬であつたからその四倍といふことも判る。これは米國にとつて却々容易ならぬ數である。

兵一人について背後を守る軍關係就業勞働者は農業を含めてどれ位かといふと、第一次歐洲戰爭當時の米國統計では一對十といふことになつてゐる。この割合からすれば軍隊九百萬を養ふためには一般勞力者が九千萬であつてこれは米國の生産年齢人口の全部となるから銃後生産の能率化、機械化等を徹底したとしても容易ではないことが判る。現在でも一般勞働者は六千萬人内外で既に婦人勞働者が百數十萬といふことであるから、これが先づ最大限と見てよいと思ふ。米國は昨年十

二月から徴兵制を布き徴用制度を徹底する等この兵員及び勞働者の總動員に懸命であるが、この成績は今日まで豫定の三分の一にも達しないといふことである。

序でに英國の人的關係をいへば昨年勞働大臣が英國人口四千七百萬中戰時勤務に従事してゐる者二千二百萬と發表した。特に注目すべきは女子が八百七十萬であつて政府直營の工場四十二の勞働者卅萬の中その六割が女子であるといふ點である。當局は不急産業、文化事業關係を極端に節約して勞働力の捻出を企圖しこれがため交通、通信、運輸、防衛關係は殆んど婦人を以てこれに充てつゝある。これ英國が人的資源において既に極限に達したといはれる所以である。物はいくらでも生産し得るであらう。然し人はさうはゆかないのである。海に陸に空に無數に死し傷きそして病みつつある人の補充を一體どうするのか。米英が命の綱とたのむ海運において船員が急速に消耗され、その能率は遞減しつゝあるのは事實である。ソロモン、ニューギニアさてはビルマ等における彼我空中戦において彼がわが十倍の犠牲を出しつゝあるのは、既に空軍將兵の補充難に基く素質の低下を如實に物語るものであらう。

次は時間の問題であるが戦争が永引けば永引く程有利なのは樞軸側であることは敢て斷言して憚らぬものである。日本は大陸に大洋に政戰兩略の不敗の態勢を確立しつゝある。戦ひつゝ建設し戦争を以て戦争を培養するの方略は寸刻の猶豫もなく圓滑に順調に具體的事實の上に顯現されつゝあることは何人と雖も認識せざるを得まい。藉すに歳月を以てせば日本は世界聯合の強力を以てしても打倒し得ざる態勢になるぞとい

ふことは重慶や濠洲の連中が盛んにわめき立てゝゐるところである。大東亞戦争は破壊や消耗でない、建設であり生産である。日本は今や戦争の結果完全に持つる國となり長期持久戦争においては偉大なる力量を發揮し得ることになつた。滿洲事變以來十年、支那事變以來六年、大東亞戦争以來一年有半、而もこの綽々たる餘裕ある國民生活を見よ。

米國はその生産においても本年秋が最頂上であつてその後暫くこの状況を維持し得るか、否恐らく下降するであらう。歳月の経過とともに戦力の衰弱するのは米英である。この問題を一例として米英の船舶關係から觀るのも興味がある。米英合計の造船能力は一年に約一千萬トン、樞軸側の潜水艦、飛行機等にて撃沈されるのが毎月約百萬トン見當、果して然らば米英の船舶保持量は月とともに遞減されつゝある。そして保持量を割る時が必ず来る。

米國第七十八議會における大統領の教書には一九四三年を以て攻勢の年と定め、北の方アリューシャン群島方面の反攻、西の方重慶の援助特に在支空軍の強化並びにビルマへの反攻、南の方ソロモン群島及びニューギニアの地歩確立等その對日包圍圈を逐次壓縮して日本本土を目指す空襲を企圖し、既に莫大なる犠牲を拂ひつゝある。今後戦局の波瀾曲折は當然で一時期一局地においては或は不利なる戦況も現出するであらうが、然し今次の戦争が地球上を戦場とし長き長き戦ひを戦ひ抜く上から見ればかゝる現象は何等一喜一憂に値しないのである。ガダルカナル戦鬪の華大野中尉の遺書にあつた如く『必死必成誓つて 聖慮を安んじ奉る』ために一億國民が結束せばこの戦争の前途には勝

利のみ燦として輝くことを確信する次第である。